

環境基本計画市民ワークショップ

「～はんだ×環境×みらいを考える～」実施報告

■目的

環境に関する市民の意識や意見を収集・把握し、第2次半田市環境基本計画の策定に活かす。

■市民ワークショップ概要

- (1) 日 時 令和7年8月29日(金) 14時～16時
- (2) 場 所 市民交流センター(クラシティ3階) 市民活動ルーム A/B/C
- (3) 対 象 市内在住・在勤・在学の方
- (4) 参加者 17名

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
人数	4(※)	1	2	1	1	4	4

(※) 小学生1名、中学生1名、高校生2名

■次第

- (1) 半田市の環境に関する取組について
- (2) ワークショップ
 - ①「半田市の環境の良いところ、悪いところ」
 - ②「半田市の環境が将来どうなってほしいか」
 - ③「②を実現するためには何をすべきか」
- (3) まとめ

■内容

- (1) 半田市の環境に関する取組について

半田市は現在、「第二次半田市環境基本計画」の計画の期間中であり、令和7年度は中間年度に当たり、実情に即した計画とするため見直しを行うものである。ワークショップを行うにあたり、計画の概要を把握してもらうため、5つの柱「ゼロカーボン社会」「資源循環社会」「自然共生社会」「安心・快適社会」「協働」ごとに取り組んでいく概要や目指している姿などを紹介した。



(2) ワークショップ

1班3～4人ずつの5班に分かれるとともに、市職員4人も班に加わり、5班で3つのテーマについて考えていただいた。意見や考えを付箋に記入し、模造紙に貼り、班内で意見交換をした。その後、各班の内容を2分間で発表しあい、全体で意見を共有し合った。

各班発表概要

・ A班

農業高校があり、学校に色々提案することで実現できることも広がっていく。環境問題は知らないことが多くあり、まずは知ることが大事であると感じた。ワークショップに参加できたことでいい機会となった。



・ B班

半田市には食品残渣やコーヒーかす、牛糞尿を資源としたバイオマス発電施設がある。この施設の利用が増え、生ごみをもっとリサイクルされることにより、地域内で資源が循環できるごみ0社会となることを望む。



・ C班

半田には川・海・森と環境資源の種類が多く、公園も多い。しかし、そこでゴミ目に付き、多くがペットボトル等分別すれば資源とすることができるもの。全員が自分事とし、ゴミ拾いなど主体となって行動することができるれば様々な問題が解決していくのではないかと考える。



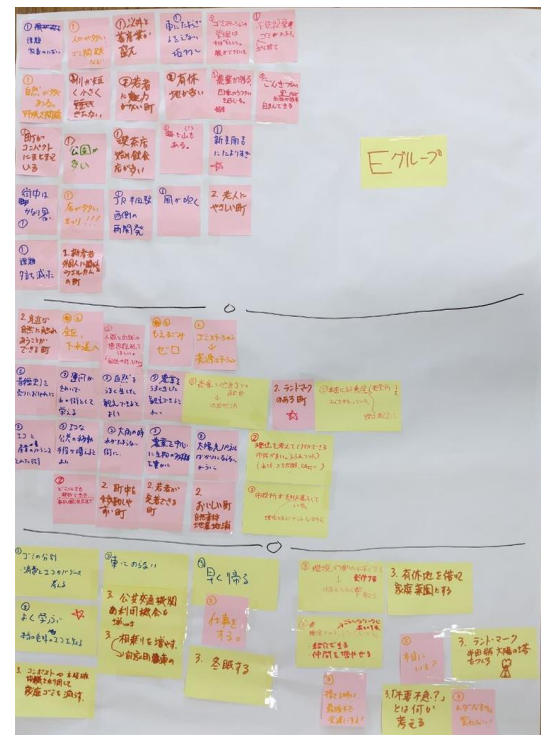
・ D班

半田市には川やため池が多く、自然豊かな環境が保たれているところが半田市のいいところ。将来の半田市でも豊かな自然が残せるよう、今いる自分たちがごみ清掃などの保全活動や自然と触れ合える自然観察活動を行っていききたい。



- ・ E 班

半田市は新美南吉の出身地であるが、それに頼りすぎていると感じるので、新たなランドマークを作ると新しい発信ができ、若い人たちが半田に訪れたいきっかけになるのではないかと。そうして新たな視点が生まれ、よく学んで本当の意味のエコを知り、半田市の環境を考えることへつながるのではないかと考える。



(3) まとめ

半田市の環境に関心のある様々な立場の人が、話し合うことで、新たな気づきが生まれたのではないかと。本日のワークショップがこの場だけで終わるのではなく、このワークショップをきっかけに、半田の環境に関わりを持ち、半田市の環境をみんなで守っていくまちになると良い。